

一般演題 高気圧酸素治療の臨床① OP5-4 未就学児に対する高気圧酸素治療における当院 の現状と工夫について

○小野寺慧洲¹⁾ 法邑まなみ²⁾ 石川勝清²⁾ 森本裕二¹⁾

- 1) 北海道大学病院麻酔科
2) 北海道大学病院 ME 機器管理センター

【研究の背景】

近年、当院では小児に対する高気圧酸素治療（HBO）は増加傾向にあるが、実施に際し成人と異なり、治療完遂のために多くの工夫が必要とされる。また、小児に対するHBOに関する論文は少ない。今回、HBOを施行した未就学児において、施行前後の種々の因子から、その成否に関与する因子を調査し、その結果、どのように工夫すれば、より治療を完遂出来るのかを明らかにする。

【対象者】

2022年4月1日から2023年12月31日の間に、HBOを施行した未就学児を対象とした。

【方法】

既存の研究を用いる後ろ向き観察研究。

【評価項目】

主要評価項目はHBOを完遂できた割合とした。副次評価項目として、中止になった理由、合併症の起きた割合、鼓膜切開を施行した割合を評価した。

【結果】

対象者は21例で、完遂出来た症例は16例（76%）であった（表の色なし）。合併症は3例（14%）で中耳炎のみ、鼓膜切開は3例（14%）であった。中止理由は、マスク保持が出来ない（2例）、耳抜きが出来ない（2例 {母親含む}）、高気圧酸素室に入ることが出来ない（1例）となった。

【考察】

マスク保持に抵抗のある患児ではマスク保持練習を行うことで治療完遂率の改善につながると考えられる。また中耳炎の既往がある場合には、積極的に耳鼻科に紹介し予め鼓膜切開を施行することも有用と考える。ただし当院においては、口蓋裂が多いため中耳炎が多かった可能性がある。小児のHBOにおいて最も重要な点は、保護者の協力であり十分なインフォームドコンセントが必要と考える。そのためにもHBOが有効であるというエビデンスを積み重ねていくことが、今後とも重要である。

【結語】

未就学児におけるHBOは、保護者への十分な説明とともに、マスク保持練習や鼓膜切開等を予め施行することで完遂率を上げられる可能性があると考えられる。

表 1

case No.	年齢(歳)	性別	疾患	付添い	回数	既往歴	合併症	鼓膜切開
1	4	男	鼻咽腔閉鎖不全症	母	1	中耳炎		
2	0	男	唇顎口蓋裂	母	18		滲出性中耳炎	
3	0	男	唇顎口蓋裂	母	9	中耳炎		
4	0	男	唇顎口蓋裂	父、祖母	10			
5	6	男	唇顎口蓋裂	母	10	副鼻腔炎		
6	0	男	唇顎口蓋裂	母	10			
7	0	男	唇顎口蓋裂	母	10	滲出性中耳炎	滲出性中耳炎	施行
8	6	男	唇顎口蓋裂	母	9	中耳炎		
9	6	女	鼻咽腔閉鎖不全症	形成医師	9	中耳炎	中耳炎	施行
10	6	女	唇顎口蓋裂	母	1			
11	4	男	埋没耳	母	10			
12	5	男	唇顎口蓋裂	母	9			
13	0	女	唇顎口蓋裂	母	6			
14	5	男	軟口蓋裂	母	1			
15	1	女	唇顎口蓋裂	祖母、形成医師	8			
16	6	男	唇顎口蓋裂	父	6			
17	2	女	両側趾合指症	母	1			
18	4	男	両側埋没耳	母	6			
19	0	男	唇顎口蓋裂	母	3			
20	4	女	広範囲II度熱傷	母	6			
21	1	男	唇顎口蓋裂	母、形成医師	5	中耳炎		施行